



野球指導ひとすじ30年



八幡市国民健康保険運営協議会会長

山村敏雄 氏

現在70歳の山村さん。八幡市の農家に4人兄弟の末っ子として生まれ、本人いわく「ほったらかしにされて」育った。中学卒業後は京阪電鉄に就職、その後大阪市役所勤務を経て、45歳の時に八幡市議会議員に当選し市政に力を尽くしてきた。議員を引退後に、市からの依頼があり会長職に就いた。国保料の引き上げなど難しい課題もあるが、「頼まれたら嫌と言えない性格で。それに何でも体当たりでやってみようという気持ちでいます。自分の新たな面も出てくるかもわからんしね。」若いころから自立し、自分の道は自分で決めてきたという自負が感じられる。

これまで病気とは無縁の人生だったが、昨年脳梗塞を発症した。日頃感じていた手足のしびれについて知り合いの医師に相談したら、即入院させられたという。幸い早期の発見であったため大事に至らず、現在は発症前とほぼ同じ生活をしている。運が良かっただけでなく、元来丈夫な体あってこそ回復力だろう。

「健康法というたら野球しかないなあ。少年野球の指導を30年ほどやりました。」

山村さんは市議会議員としてだけでなく、八幡市少年野球の重鎮としても知られている。もともと自らプレーするのも観戦するのも好きだったが、もっと地域に野球が根づいてほしいと少年野球チームを立ち上げた。以来毎日、早朝からの練習にももちろん監督である山村さんも参加してきた。土日も規則正しい生活と指導者という立場が、自然と心身の自己管理につながったのかもしれない。

「よく練習するから負け知らずだった」というチームの教え子からは、プロ野球や甲子園に行った者もいる。だが山村さんが少年野球を指導する上で一番大切にしているのは、野球の技術ではなく人との付き合い方を教えることだと話す。子ども同士の暴力には厳しく接し、その分大きな声が出るようになったというちょっとしたことで褒めるようにした。

脳梗塞を患ってからは指導の第一線からは退いたが、「少年野球やってるのをこっそり後ろからのぞいてますねん。あんまり表立って行くとみんな気を使わはるから。」今も気になってしょうがないらしい。